

ラナンキュラスの茎頂培養法および増殖培養法を確立した。茎頂培養法については、培地に添加する枯物ホルモン組成、培養時の雑菌生育抑制、水浸状化の回避を検討した。増殖培養法については、培地に添加する植物ホルモン組成、培養温度条件を検討した。得られた結果は次の通りであった。

1. 茎頂培養条件は、茎頂摘出前の材料を 70%エタノールで 30 秒、0.5%次亜塩素酸ナトリウム溶液で 15 分浸漬殺菌し、植物ホルモンとして BA0.01mg/?および NAA0.01mg/ℓ, 抗生物質セフトキシムナトリウム 600mg/ℓ, PVP または カザミノ酸 500mg/ℓ, Gelrite 5g/ℓ を添加し、pH5.6 に調整した MS 培地を用いることにより、培養時の雑菌生育抑制および再生植物体の水浸状化を回避でき、70~80%の高い再生率が得られた。
2. 増殖培養に用いる培地には、植物ホルモンとして BA0.05mg/ℓ および NAA0.01mg/ℓ を添加し、培養温度条件は、明期 15°C, 暗期 10°C に設定するのが最も適当であった。
3. 上記条件による増殖効率は、約 1 年で少なくとも 1000~3000 倍であると考えられた。

キーワード：ラナンキュラス, 茎頂培養法, ウイルスフリー化, 抗生物質, 水浸状化, 増殖培養法